

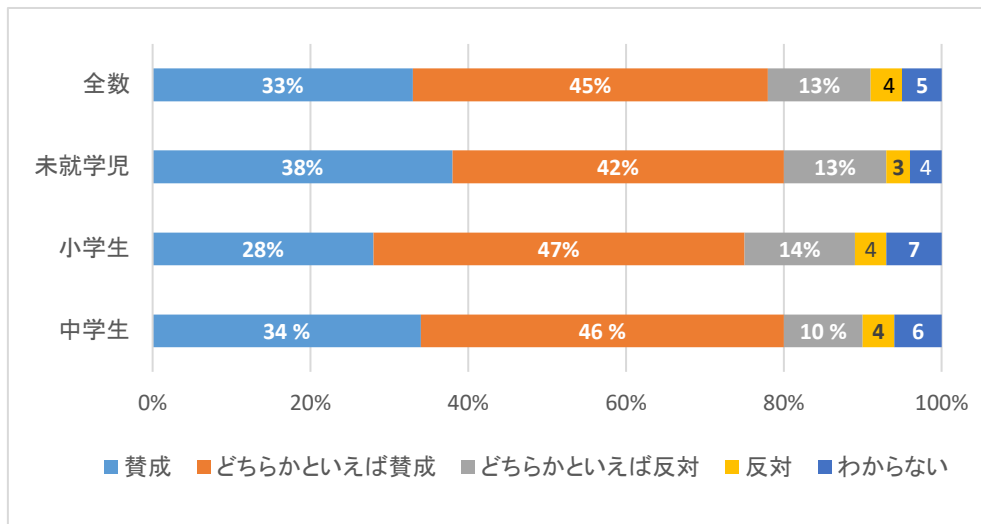
釜石市立小・中学校の学校規模適正化・適正配置に関するアンケート 分析

1 回答数から

アンケート回収率は、未就学児の保護者 34.0%、小学生の保護者 29.7%、中学生の保護者 20.9%であった。また、自由記載も未就学児の保護者 56 件、小学生の保護者 49 件、中学生の保護者 21 件となっており、子どもの年齢が低くなるほど学校規模適正化・適正配置について、関心が高いことが分かる。

2 小中学校の統合などを進めることについて

(1) 市内小中学校の統合などを進めることについて、釜石市全体として考えたときは、次のような結果になっている。



全数では、「賛成」「どちらかといえば賛成」が 78%、「どちらかといえば反対」「反対」が 17%、「その他」が 5%となっているが、年齢階層及び学校区によって、意向が異なることが分かる。

「賛成」「どちらかといえば賛成」の理由は、「様々な人間関係の中で社会性を身につけることが期待できるから」が最も多く、次いで「集団の中で多様な考えに触れ、切磋琢磨することが大切だから」「学校行事やスポーツ活動、音楽活動などの教育活動の幅が広がるから」となっている。全ての年齢階層において、上位 3 項目は、順位は異なるものの同じとなっている。

「どちらかといえば反対」「反対」の理由は、「少人数のほうが児童生徒一人一人に目が行き届きやすく、きめ細やかな指導を期待できるから」「教職員との距離が近くなり、問題が生じた場合などスムーズな対応が期待できるから」「その他」となっている。「その他」の選択は未就学児の保護者に多く、「学校が遠くなると、通うのが大変だから」という理

由が多い。児童生徒に対する丁寧な指導と学校生活における安全安心を求めていることが分かる。

「わからない」理由は、「統合のメリット、デメリットが分からないから」「慎重に判断する必要があると思うから」という意見があった。

■ 「賛成」「どちらかといえば賛成」の割合が多い学校（上位3つ）

区 分	1 位	2 位	3 位
未就学児	白山小学校区 100%	平田小学校区 94%	鶴住居小学校区 88%
小学生	鶴住居小学校 85%	白山小学校 83%	釜石小学校、平田小学校 81%
中学生	大平中学校 92%	甲子中学校 83%	釜石中学校 80%

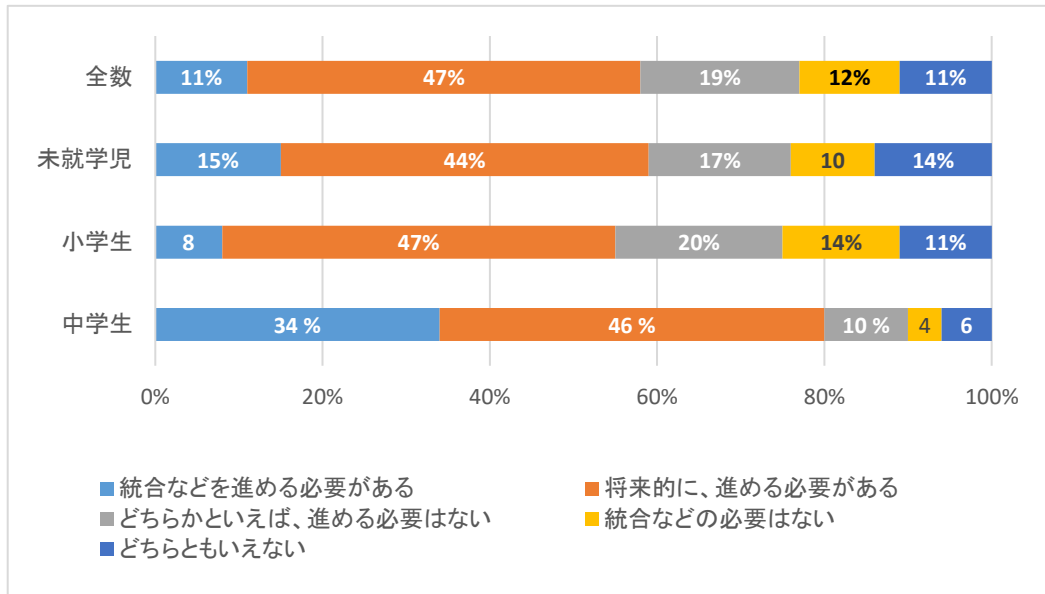
■ 「どちらかといえば反対」「反対」の割合が多い学校（上位3つ）

区 分	1 位	2 位	3 位
未就学児	双葉小学校区 26%	小佐野小学校区 22%	甲子小学校区 19%
小学生	唐丹小学校 29%	小佐野小学校、甲子小学校 22%	
中学生	釜石東中学校 唐丹中学校 25%		釜石中学校 17%

■ 「わからない」の割合が多い学校

区 分	1 位	2 位
未就学児	双葉小学校区 16%	栗林小学校区 14%
小学生	白山小学校 17%	平田小学校 11%
中学生	釜石東中学校 17%	甲子中学校 10%

(2) 自分の子どもが通う小・中学校（未就学児の場合は通うことになると思われる小学校）の統合などを進めることについてのアンケート結果は次のとおりとなっている。



小中学校の統合などについて、釜石市全体として考えたときと、自分の子どもが通う学校（未就学児の場合は通うことになると思われる小学校）について考えたときの意識に差があることが分かる。

全数では「統合などを進める必要がある」「将来的に、進める必要がある」の割合が 58%、「どちらかといえば、進める必要はない」「統合などの必要はない」が 31%、「どちらともいえない」が 11%となっている。

小規模の学校ほど「統合などを進める必要がある」「将来的に、進める必要がある」との回答割合が高くなっているが、「どちらかといえば、進める必要はない」「統合などの必要はない」との回答も一定数あることが分かる。

■ 「統合などを進める必要がある」「将来的に、進める必要がある」の割合が多い学校（上位3つ）

区分	1位	2位	3位
未就学児	白山小学校区、唐丹小学校区 100%		栗林小学校区 86%
小学生	栗林小学校 90%	白山小学校 83%	釜石小学校 81%
中学生	大平中学校 76%	釜石東中学校、唐丹中学校 75%	

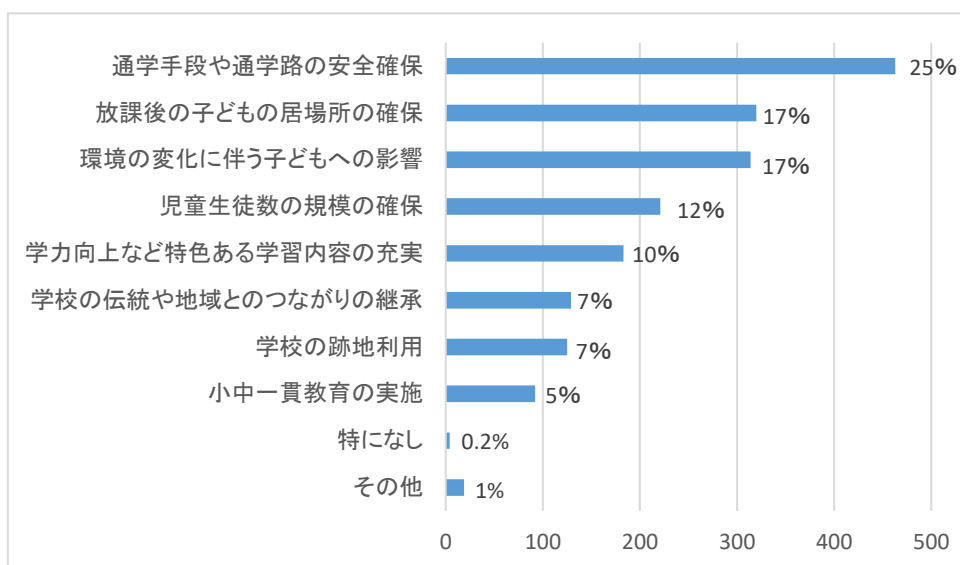
■ 「どちらかといえば進める必要はない」「必要はない」の割合が多い学校（上位3つ）

区 分	1 位	2 位	3 位
未就学児	小佐野小学校区 43%	甲子小学校区 33%	鵜住居小学校区 25%
小学生	小佐野小学校 48%	甲子小学校 33%	平田小学校 31%
中学生	釜石中学校 38%	唐丹中学校 25%	甲子中学校 20%

■ 「どちらともいえない」の割合が多い学校

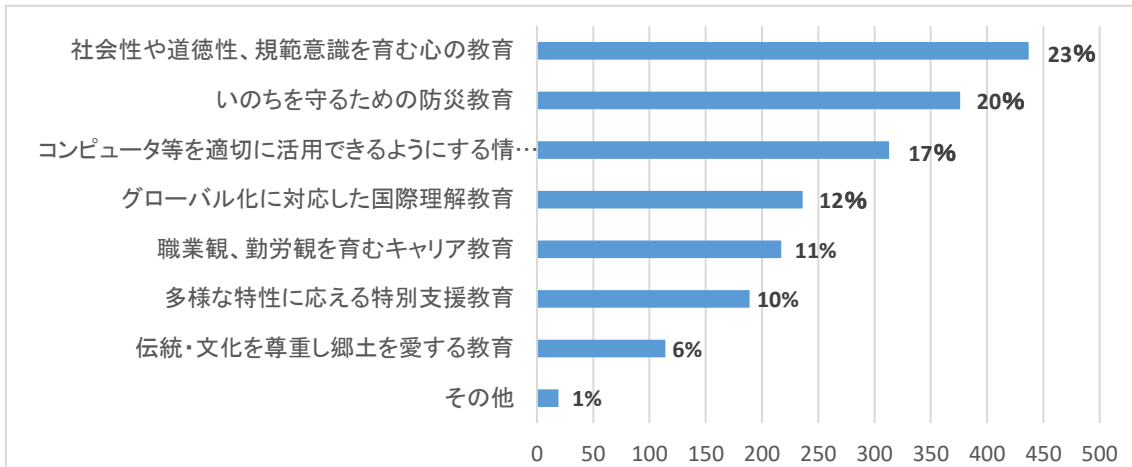
区 分	1 位	2 位
未就学児	釜石小学校区 23%	甲子小学校区 20%
小学生	鵜住居小学校 21%	白山小学校 17%
中学生	甲子中学校 10%	

3 学校の統合などを進める場合、配慮してほしいこと



いずれの階層区分でも、「通学手段や通学路の安全確保」を求める回答が最も多い。また、子どもの年齢が低いほど、「放課後の子どもの居場所の確保」を重視する傾向がある。未就学児・小学生と比較すると、中学生の保護者からは「児童生徒数の規模の確保」「学力向上など特色ある学習内容の充実」を求める回答も多くなっている。

4 学校教育の充実を図るために、優先して取り組んでほしいこと



全ての階層区分で、「社会性や道徳性、規範意識を育む心の充実」「いのちを守るための防災教育」「コンピュータ等を適切に活用できるようにする情報教育」の順となっている。

5 まとめ

アンケート結果から、大多数は学校規模の適正化について必要性は理解していることが分かる一方、実際に自分の子どもの通学する学校となると、意見が分かれる傾向にある。複式学級のある学校では、統合に賛成する声が多いが、一定数、反対の意見もある。

自由記載には126件の書き込みがあった「学校統合などは賛成だが、スクールバスなど通学、学童の配慮をしてほしい」「複式学級はやめてほしい」「少人数にも良さがある」「統合による親の負担が心配」などの声がある。いじめや不登校に関しても、「少人数のほうがいじめの確率が低くなるので統合に反対」「少人数過ぎてトラブルが起きた際にどうすることもできない」など、それぞれの立場からの意見が出されている。ただし、いずれも、子どものことを第一に考えて適正化を検討してほしいという保護者の願いが根底にある。また、未就学児の保護者からは、通学する学校によっては転居を考えるという声もあり、よりよい教育を子どもに受けさせたいという思いが窺える。

小中一貫教育については、記述の数自体は多くはないが、賛成、反対がはっきりしている。小中一貫教育については、どの程度、理解されているのか、疑問が残るところがあるため、今後の情報提供が必要と考えられる。

今回のアンケートにあたっては、児童生徒数の推移等を紙で示したものの、小規模校のメリット、デメリット、小中一貫教育など、細かい情報は市のホームページから基本方針(案)を見てもらわなければなかった。

今後、具体的な検討を進めていく中で、子どもたちの教育の充実のための適正化・適正配置ということを抑えながら、必要な情報を丁寧に周知していく必要がある。